

日本国民への提言



〒581-0061 大阪府八尾市春日町1-4-4
電話072 (991) 3398
FAX072 (991) 4498
ホームページアドレス
http://www.tamagob.com/

たまごビル 院長 石垣 邦彦

たまご理論で病気のしくみを考える

たまごビル健康講座・7月14日

日本の国民一人ひとりが、自らの「からだ」の「しくみ」を生かすことで、日本を再生する

たまごビル健康講座の目的は「自分の「いのち」は自分で守る」ことにあります。そのため、病気の治療のみならず、予防にも力をいれます。もちろん、地震・津波・火災・救急医療・拉致・特殊詐欺など「いのち」を守ることはいろいろなことが講座の対象となります。



介護予防と介護

①石西正男さんのケース
脳梗塞・半身麻痺・胃ろう・導尿
ROB医療(内臓調整)で麻痺側の脚を支えられるようになる

②山田慎一さんのケース
妻「老化と転倒による認知症・膝腰の痛み」
夫「心臓ペースメーカー装着・肺炎」
妻「膝腰の痛みが楽になり動きがよくなる」
夫「妻の介護が楽しくなり、失禁を止めた」

「たまごビル院長 石垣邦彦」
介護予防と介護の問題ですが、これは非常に切実な問題です。高齢化に伴い、老老介護が増加し、介護者が社会問題になっていっています。

《介護不安「長生きが怖い」》

《体験発表 紙上で再現》

死の看取り

①稲田登志子さんのケース
稲田さんの病 腸閉塞7回・心筋梗塞・変形性膝関節炎・極度の食欲不振等がROB医療(内臓調整)で良くなる



胆管がんが見つかり、川崎さんは手術日が決まりました。しかし、手術が成功しても余命1年と診断されました。

「たまごビル院長 石垣邦彦」
介護度5から4になりました。これが介護の本質ではないかと思えます。

③小谷静さんのケース
肝臓癌末期1年
ROB医療(内臓調整)で歩ける・食べられる・旅行ができるようになる

「たまごビル院長 石垣邦彦」
この方は肝臓癌で、末期の状態でしたが、末期の癌で来られ、動くことも食べられることもできなくなりましたが、ROB医療(内臓調整)で一かた、をこの元気に、旅行もゴルフも行き、食事もできるようになりました。

人生の船長である高齢者よ立ち上がれ

ROB医療(内臓調整)で介護不安を解決する

「たまごビル院長 石垣邦彦」
この方は、東大阪市立総合病院から紹介されてきた患者さんです。腸閉塞を7回起こしておられました。7回も生きているか死ぬかという経験をしてきたのです。

②川崎公恵さんのケース
胆管癌の末期
手術日が決まりましたが、家族の要望と現実的な川崎さんの幸せを話し合い、副院長とが病院院長に会い、話し合い、手術が中止となる。ROB医療(内臓調整)で旅行に何回も行けるようになる



「たまごビル院長 石垣邦彦」
「内臓調整による医療革命」のP12に「自宅で死を看取る幸せ」というタイトルがついています。その内容を増田美樹さんが朗読し、川崎さんの義理の息子である上西さんにも感想を述べていただきました。

「たまごビル院長 石垣邦彦」
「内臓調整による医療革命」中「自宅で死を看取る幸せ」の内容は、



「たまごビル院長 石垣邦彦」
「内臓調整による医療革命」で書かれてきたことが伝承されて、大きな一つの安心材料になったのです。

「たまごビル院長 石垣邦彦」
「内臓調整による医療革命」で書かれてきたことが伝承されて、大きな一つの安心材料になったのです。

「たまごビル院長 石垣邦彦」
「内臓調整による医療革命」で書かれてきたことが伝承されて、大きな一つの安心材料になったのです。